

1月号

第300号

# いっしん

平成22年(2010年)

甘本親教会  
初代親先生のみ教え

親神様から  
信用と頂かなければ  
根強い生活  
根強い世渡りは  
できないのであります

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良郡加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki

今天地の開ける音を聞いて  
眼を覚ませ

教祖様のみ教え



迎春

新玉の年を迎へぬ畏くも

神はいかにかおぼしめすらむ

安武松太郎師 御歌

平成二十二年の

## 新年を迎えて

教会長 矢野 章

平成二十二年、教祖百二十八年、  
立教百五十一年、甘本親教会布教百  
六年、加治木布教五十九年の新春を  
迎え、おめでとうございます。

加治木教会長の御用を引き継ぎ早  
十三年となりますが、この間何の功  
もなく、自分自身の信心の至らなさ  
を痛感するとともに、深きご神慮の  
中に日々天地のみ恵み・み働き・み  
命を賜り、信心の成長を願われつつ  
育まれていることを感じさせられま  
す。しかし、信心の成長は遅々とし  
て神様・霊様方にも相済まないこと  
になっているように思われます。

ところで、昨年十月に甘本親教会  
布教百五年記念大祭で直会としてお  
下げいただきました『安武松太郎教  
話集 第十集』を読ませていただき  
ますと、その後半に矢野クラ刀自の

新年を迎えて (教会長).....P1~2  
加治木教会生神金光大神御大祭...P3

松井真佐雄先生ご教話.....P5~7  
信徒会のお知らせ...P9 教会行事...P10

ことをお話になってあります。(毎朝御祈念後、奉読・研修)

その中で、クラ刀自が安武松太郎先生から教え導かれたご信心の内容、それも信心の要諦と言えることがお話しされています。

そこには、「おかげを信するより親神様を信することが大切。親神様は真実の幸福を得させるために願うことを意のごとく願いのままにかなえてくださらない。しかし苦しい所を通ったことが修行となつて、その間に信仰の根が深く張り地中の養分をいかなく吸収することができるようになり、枯れかかった木が再び生き返つて、人に羨望されるようになった。それは、自分本位でない神様本位の信心となり、信心の実力を養うことができたのです」(要旨・85頁以降)とあります。

クラ刀自は、そのようなご体験を通して、篤い信心実践はもちろんのこと、人に羨望されるような財産もでき、難儀な人を数多く導き助けることをはじめ大変な御用も喜んでできられるようになった。

そのようなご信心こそ、昨年の立教



新春の教会家族一同

百五十年のお年柄を契機に教団の基本方針に謳われるようになり、「おかげの自覚」の「おかげ」を最も深いものとして自覚され「神も助かり氏子も立ち行く」ことを端的に現された信心と言えます。

加治木教会の信奉者一同は、立教百五十年、甘木親教会布教百五十年のお年柄に、改めて加治木教会の助かりの原点に注目せざるをえなくなりました。(…教会家族も一信奉者)

その原点にあるものは、前教会長矢野政美親先生が伝えられた、ご母堂 矢野クラ刀自が頂かれたご信心であり、それは教祖様のご信心をまさに命を懸けて現された甘木親教会初代 安武松太郎先生のご信心であります。

加治木教会の信奉者一同は、立教百五十年、甘木親教会布教百五十年のお年柄に、教団や親教会から信心の大きな目標・旗印を掲げていただいたようなものと言つても過言ではありません。

加治木教会の信奉者一同は、素晴らしい信心実践・信心生活の模範をその原点に頂いているのであり、信心させていただく者としてこれほど幸せなことはありません。

目標と方向は定まったようなものではありません。ここから、即ち今年平成二十二年以降は、「神も助かり氏子も立ち行く」信心の歩みを力強く進め、稽古に邁進させていただかねばならないと思います。

加治木教会

# 生神金光大神御大祭

仕えられる

紅葉照り映え菊香る、晩秋の十一月二十九日(日)、加治木教会では立教百五十周年の生神金光大神御大祭が仕えられました。

前日は、お広前と親奥様のお部屋などの絨毯敷きや、炊事場ではお直会のお弁当の下ごしらえなどがありました。老若男女皆で和気あいあいと御用が進み、ありがたいことでした。



ご祭典



お弁当下ごしらえ



親奥様お部屋じゅうたん敷き



炊事御用



当日は、深まる秋を感じる清々しい  
天氣に恵まれました。十二月を目前に  
ひかえてストーブの準備もできてい  
ましたが終日必要ありませんでした。  
直会作りの御用も、早い方は早朝薄  
暗い頃より大鍋に火を入れられ、それ  
ぞれの料理は真心を込めて作られて  
いました。  
親先生ご祭主のもと麗しくご祭典  
が仕えられました。祭詞では、立教百  
五十年のお年柄において取り組まれ  
てきました講演会・教団施設整備・団  
体参拝・信行期間などを無事に終えさ  
せていただいたことや、甘木親教会布  
教一〇五年記念大祭参拝に教会信奉  
者一同でおかけを蒙らせていただき  
たことなどお礼を申し上げられまし  
た。



ご教話 志布志教会長 馬渡三郎先生

ご教話は、志布志教会長 馬渡三郎先生で、立教百五十年のお年柄の意義をはじめ、先生ご自身が志布志教会の初代 馬渡磯太郎先生ご信心を求め頂かれる中で、今日御取次の働きで助け導かれてある信奉者のお話しを感慨深く聴かせていただきました。  
お直会では、少年少女会バンド隊のメンバーが、甘木親教会布教一〇五年記念大祭の演奏会での演奏を熱演させていただきました。



玉串奉奠 若婦人会



少年少女会  
バンド隊による  
演奏



ご祭典後の炊事御用

加治木教会 生神金光大神御大祭 教話

平成二十年十一月二日(日)

講師 宮崎北教会長

松井 真佐雄 先生



### 《第⑥部》

難儀をおかげにせねば

当時の照先生から教えられたことで、父が話した大事なところを文字にしておりますので読ませていただきます。おかげを頂いて帰ったんじゃないが、お前は神様に可愛がられておるんじゃないからそのことだけを心に持っておれ、おかげを頂かせてもらったんじゃないということだけはつきりせい、そのことがはつきりしたなら、神様の前に座っても おかげを頂いている私でございます と言うお礼が申せようが、その難儀な

方をばかり思ってみい 辛い私でございます と言うことになるうが、神様はどつちをお喜びになるうか、難儀は難儀でもええ、けれどもその難儀も神様のおかげで通らせていただいたからそれはおかげじゃないか 難儀はいたしましたが神様のおかげでそれはそのままそっくりおかげにさせていたいただきましたとお礼が申せんようなことで神様の前に座れるか」と、こう仰るのです。

父にとつてみれば、いよいよ教会で御用させていただくということ で神様の前に座る時にどちらを思うかです。

みなさんはどうですか、有難い方に心を向けて行くのか、有難くない方に心を向けて腹を立てて行くのかどちらでしょうか。大変なところを通つてもおかげを頂いたら、おかげを頂きましたとお礼を言えるだろう、そういう信心をせいということ を教えられたのです。

これは、佐藤範雄先生(佐藤教会 初代教会長)も同様の趣のことをみ教えになられております。メモにひかえていませんが

このようなことです。

「信心のある者と信心のない者が、同じ年月同じ病気をして治ったとき、信心のある者と信心のない者は何が違うか」と、信心のない者は、やれお金が要ったやれ痛い目に合った大変じゃったというものが残る、信心のある者は、大変なところをこうして神様のおかげをいただきますと言つて有難いものが残るうが、それが大違いなんじゃ」と、このようなみ教えです。わかりやすいように教えてあると思います。

照先生もそこを同様に仰つてあります。そういうところを繰り返して繰り返して教えられています。

ほかのときもたびたび「おかげを頂いておるうが」「おかげを頂いておるにはまちがいなかるうが」とかおかげを頂いたら喜びを忘れちゃならん、なんぼうお礼を申しても申し足らんことはあるまいが、お礼を申すことを忘れていかに一心におすがりしても、一心に信心してもだめじゃ」と繰り返して繰り返して教えられています。

ですから、「おかげを頂いているところを見逃さないように見て、自分も喜び神様にもお礼ができるような信心をさせていただけよ」それが師匠から叩き込まれてきた、教えられてきた父の頂いた信心なのです。教祖様もそういう信心を教えて下さっておると思います。

先生が取次で助けて下さるとは言うけれども、先生が何を取り次いで下さっておるのかというと、もちろん私たちも生身の間人ですから痛い辛い悲しいいろいろな思いがあります。けれどもそういうところを通りながら最後は「こうしておかけを頂いております」というところに着地できれば、ほんとうのおかけになって行きます。そこから先もおかけになって行きます。放っておけば、難儀な方に眼は向きやすいです。

私がもし死んでいても

そういうものがあって、最初の話に戻ります。

私が九才のとき、「もう死ぬんじ

や」と言われたとき、「もう死ぬんじやからお礼を申して死のうや」と言うのは、父からすると、多分もうあきらめたのでしょうけれども…。

もしもそのときに、信心がなかったら一般的にどう思うでしょうか。「あの医者はヤブ医者だ見立てが悪い、毎日往診したけれども何で助けてくれなかつたか」と医者をも恨むかもしれません。

あるいは、病気の原因は石が頭に当たったことだからと、その石を当てた上級生を恨むかも知れません。「信心しているのに神様どうしてくれるのだらうか」ということになるかも知れません。

死んだ後「可哀そうなことだ可哀そうなことだ」と泣き続けて嘆き続けたかも知れません。

そういう親になるのが良いのか、あるいは周りの者に「可哀そうに可哀そうに」と言われながら私が死んで行ったならば、私はいつたいどういふ霊になっておるでしょうか。

助かった良い霊になっておるのでしょうか。たとえ死んだとしても十

年間こうしておかけを頂きました

とお礼が言えて、本人にもそれを聞かせながら一緒に「九年間有難うございました、神様のおかけを頂いてここまで成長させていただきました、子どもなりの喜びを存分に味わわせていただきまして、長い短いを言えば短い方もしませんが、それでも九年間おかけを蒙らせていただきました、有難うございました」とお礼が申せて死ねたならば、私はきつと良い霊になっておるのでないかと思えます。

残された親も「可哀そうじゃった可哀そうじゃった、医者がわるかつた」ということを言わずに、それでも神様のおかけを頂いてきたということが言えるだろうと思えます。

娘を「く」して知ったこと

この前お話しいたしましたが、私の兄弟の一番上に姉がおりまして三才で亡くなっていますが、そのとき父は嘆き悲しんでいます。

気が狂うのではないかと皆が心

配されました。けれどもそのとき、照先生は亡くなっておられるのが三代金光様の奥様キクヨ姫様にあることを聞いていただいています。



姫ヨキク光金 生女・長女  
先生・長女  
雄範先生  
佐藤先生  
照先生

父は「戦争で血も涙も失っており、ましたけれどもこの娘が生れるという事によって初めて可愛いということを知りました。そして、この娘が死んで、悲しいということがわかりました。戦地で大勢人を殺してきただけでも、敵兵のどの一人一人にも皆親があつたはずで、その親はそういう思いをしてきたのかと思います。自分の部下も大勢命を落としてきました。人が死ぬということとはこんな可愛そうなことかということがわかりました」と話したそうです。戦地では涙なんか流してはなら

んというか、そんなめそめそしたことをしてはならんと叩き込まれていきますから。涙を失った人間が初めて涙を取り戻すことができたのです。「可愛いという心が神心じゃ」というみ教えの意味合いは二つありますね、可愛いという意味と、不憫で放っておけない可愛そうなどという意味とがあります、その二つの心が分かりましたと申したそうです。

するとキクヨ姫が、「その心で行けば神様の御用はできるのじゃ」と励まして下さったそうです。

そうして父は後々、「三才の良子にわしは教えられた、良子は生涯をかけて三年の命をもって親である私を助けてくれたとお礼が言えた」と話しています。

信心をしていてなんで三才の可愛い盛りには死ななければならぬのかと思えば、親も死んだ子も助からないことになりませう。

そのような中でも有難いところを見てお礼が言えるということ、親も死んだ子も助かっていくことが

できるということがありました。

なぜ父は厳しく怒ったのか

姉の場合はそういう形で亡くなって行きましたが、私の場合は死ぬところの命を頂くことができました。



そのため、私の命の中には、父が「今日は何の日か！」と厳しく怒ったそのひと言の中には、父がいるところを通していただく中で信心の師匠から「おかげを頂いておるんじやろが、それを忘れてはならん、その喜びを忘れてなんぼ一心に信心したからと言っておかげにはならんぞ」と教えられた内容があると思います。

その時々におかけを頂いても、それを忘れるということもあるのです。忘れるだけならまだしも、おかげを頂いた方のことを忘れて辛かったことの方ばかり言う人がときどきあります。

信心の心とはどういうことであるのかということをお忘れてはならないと思います。

そういう心を歴代金光様もお取次下さっております。私はこれが立教百五十年に向けて大切なところだと頂いております。

(つづく)

### あしあと

加治木教会行事記録

#### 12月

- 1(火) 報徳月例祭 10時半
- 3(木) 甘木親教会 御大祭 第二日
- 4(金) 甘木親教会 御大祭 第二日
- 5(土) 6日
- 南九信徒会委員総会(於加治木教会)
- 吉屋家霊祭
- 8(火) (連)執行部会 於加治木教会 10時半
- 9(水) 斎掃 御用 10時
- 10(木) 生神光月例祭 霊祭 10時半

- 12(土) 感謝パーティー 16時
- 14(日) 御本部布教功労者報徳祭 遷拝
- 17(木) (連)布教協議会 於上荒田教会 10時半
- " (連)社会活動委員会 15時
- 21(月) 斎掃 御用 10時
- 22(火) 月例祭・共励会 13時半
- 29(火) 斎掃 御用 10時
- 30(水) 越年祭 13時半

### ご霊神様のおまじり

#### 一月

- 中村宗吉之霊神 (4日)昭和61年
  - 内村ハル工之霊神 (6日)昭和59年
  - 有馬幸子之霊神 (9日)平成16年
  - 西本五男之霊神 (11日)平成15年
  - 前田正蔵之霊神 (13日)昭和39年
  - 瀬戸セミ之霊神 (14日)昭和56年
  - 小屋敷勝之霊神 (14日)平成1年
  - 信國鈴子之霊神 (20日)平成5年
  - 中島ふさ之霊神 (20日)平成16年
  - 柳園義男之霊神 (24日)昭和8年
  - 本中野イセマツ之霊神 (25日)昭和59年
  - 桐野仲助之霊神 (27日)昭和21年
  - 瀬尾 清之霊神 (27日)昭和41年
- 「先祖の霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。」  
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。



感謝パーティーが開かれました (少年少女会・信徒会) 12/12

月例祭には  
仕事の都合を  
差し繰って  
参ることにすれば、  
信心が確ましてくる。

「信者の心得」福田美英著



# 信徒会からのお願い

## お願い

### 会費月二百円の値上げ

御大祭や諸行事に車で参拝される方が多いのは、車社会でありますから当然ですが、このところ教会隣の駐車場がいつも使えるわけではありませんで不便が生じておりました。

そのことにつきまして、話し合いを重ね、教会に近い天神神社の駐車場を二分、信徒会で借りることになり、使えるようになりました。

そこで、信徒会で月々の駐車料金を払わせていただきたいのですが、近年信徒会でも高齢化が進み、施設に入られる方やお国替えされる方もあり、信徒会費を納める人数が減ってまいり、信徒会費の年間収支が不足しております。

そのため、さらに協議してこのたび信徒会費を月二百円(月々500円)上げさせていただきますことになりました。信徒会員の皆様には、厳しい社会情勢で何かと出費の多いこととは存じますが、よろしくご協力をお願い致します。

## 「信徒会」の意味合い

信徒会の先輩方は「信徒会は御用の集団」とはつきり言われています。

信徒会は、信徒が皆で協力して、教会の育成活動・各会の活動・教会報の作成・諸行事など万端に手落ちなく行き届いた御用をさせていただくことを目的とした会組織です。

そのために信徒の会員が会費を納め、信徒会で集まった真心の浄財をいったん神様にお供えしお届け申し上げ、それを神様のお下がりとして使わせていただきます。

ですから、一般的な利便性を優先させることを目的としたものでなく、神様の御用をさせていただくための運営心がけねばなりません。

## 「賛助金」もよろしく

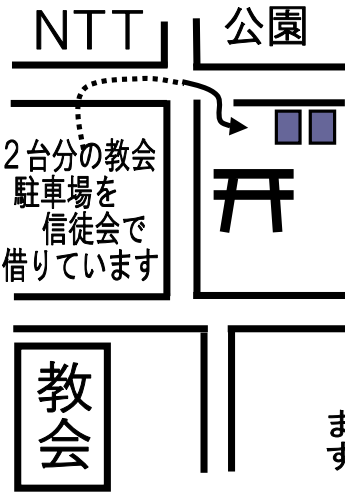
お願い致します

これまで信徒会では、信徒の皆様の方で、多めに必要経費がかかるとき、特に連合会への協力、少年少女会育成資金、施設管轄費などのため、自主的に「賛助金」を募ることがありました。

しかし、このところ「賛助金」へのご協力がほとんどありません。どうぞ、信心の「造営」「増栄」の一環として勢をそろえて取り組ませていただきますよう。

現在信徒会費のご協力をいただいている方々。  
(敬称略)

- 中野重子・瀬戸淳一・中村正行
- 濱口洋子・瀬尾田鶴子・吉屋照子
- 松田正樹・福元ノブ・大重美知子
- 渡辺ハルキ・大山純子・中村幸子
- 小屋敷康子・岡山優一郎・萬代孝子
- 星原恭子・安楽郁子・三反恵子
- 前田シツ・徳永盛広・永原久子
- 前田和子・福元正浩・上田喜人
- 牧野恵子……ご協力有難うございます。



一月六日(水) 十時半より  
少年少女会 七草たこやき・書初め(作品展用)  
…習字道具持参してね!

七草祭(鏡開き)

一月十日(日) 十時半より

加治木教会 月例祭に併せて

成人感謝祭 奉仕

※成人者、玉串奉奠・記念品授与。

一月二十四日(日) 十時より

鹿兒島地方教会連合会 場所：鹿兒島教会

定期総会

二月一日(月)

月例祭に併せて

節分祭 奉仕

二月十七日(水)

甘木親教会

報徳祭 参拝

二月二十一日(日) 午前

十一時より

加治木教会 (前日御用奉仕)

報徳祭 奉仕

※「祭典・教話、後直会。

月例祭 22日→20日  
変更になっています!

教会行事

平成二十一年

1月

- 1(祝) 元日祭 正午
  - 3(日) 甘木親教会年頭参拝
  - 6(水) 少年少女会 10時半
  - 9(土) 齋掃御用 10時
  - 10(日) 生神光 大神様 月例祭・豊祭 10時半  
併せて 成人感謝祭
  - 13(水) 若婦人会 13時半
  - 17(日) 西鹿兒島教会 報徳祭
  - 19(木) 齋掃御用 10時
  - 20(金) 月例祭・共励会 13時半
  - 21(木) 23(土) (少)連合本部理事会
  - 24(日) 連合会定期総会
  - 31(日) 齋掃御用 10時半
- 青年会 20時
- 少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により日程を変更することがあります。随時連絡しますのでお気をつけ下さい。

2月

- 1(月) 報徳月例祭 節分祭 10時半
  - 3(水) 甘木親教会月参拝日
  - 4(木) 甘木親教会初代立日御祈念 10時
  - 7(日) 少年少女会
  - 10(水) 月例祭 10時半
  - 12(金) 矢野政美大人立日御祈念 10時
  - 14(日) 上荒田教会 報徳祭
  - 17(水) 甘木親教会 報徳祭 11時
  - 18(木) 甘木親教会「同釜会」
  - 20(月) 御用奉仕
  - 21(日) 加治木教会 報徳祭 11時
  - 22(月) 引続き 矢野政美大人例年祭 月例祭 共励会 13時半
  - 28(日) 齋掃御用 10時
- 多良木教会 報徳祭 11時
- 青年会 20時
- 若婦人会

一月五日～二月四日  
寒中一斉信行

ご祈念・研修は午前五時三十分・午前十時  
ご祈念のみは午後四時・午後九時

※信心の稽古に励み  
親神様にお喜びいただける信心に  
ならせていただきますように!